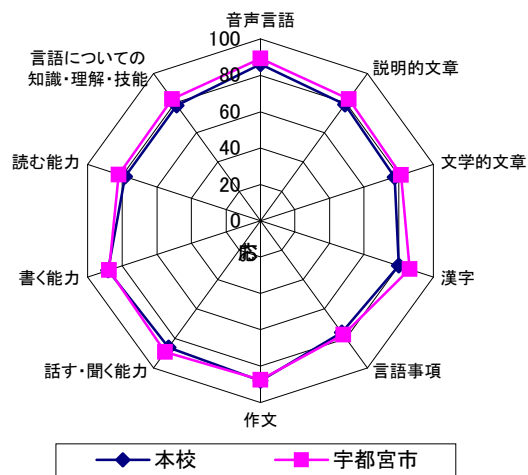


宇都宮市立宝木小学校第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	音声言語	86.1	89.2
	説明的文章	79.1	82.7
	文学的文章	77.7	81.3
	漢字	79.9	86.3
	言語事項	76.1	77.5
	作文	88.1	87.4
観点別	話す・聞く能力	86.1	89.2
	書く能力	88.1	87.4
	読む能力	78.4	82.0
	言語についての知識・理解・技能	78.4	82.7



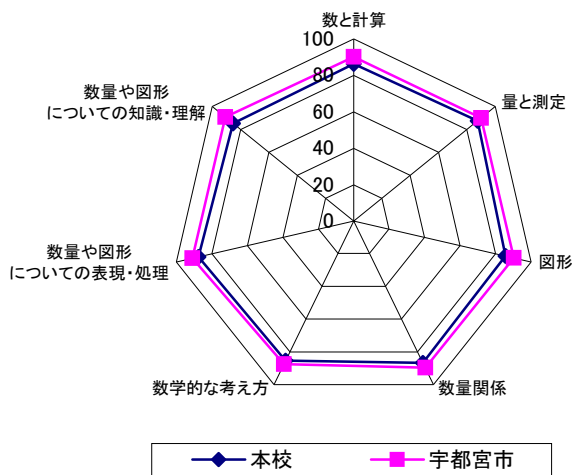
★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
音声言語 (86.1%)	・平均正答率は、市平均正答率より下回っているが昨年度よりややよくなっている。特に低かったのは話し合いの流れに沿った意見の記述問題に誤答が多かった。	・話の中心や話し手の意図、話の内容を聞き取ることができるよう各教科の授業や日常生活において指導しながら、自分の伝えたいことや意図を明確にして他人にわかりやすく話すことができるよう重点的に指導していく。
説明的文章 (79.1%)	・平均正答率は、市平均正答率より下回っている。特に段落と段落の関係や筆者の意見の根拠に対する設問に正答率が低かった。	・説明文の学習では、接続語や文末表現などに気をつけながら、論文形式である序論・本論・結論などの文の構成を考えさせる。また、各段落ごとの要点をまとめるときは、重要だと思ふ文や言葉を手がかりに、まとめていくようにする。
文学的文章 (77.7%)	・平均正答率は、市平均正答率より下回っている。文脈に即した内容の理解に正答率が低く、登場人物の心情の移り変わりの正答率もやや低い。	・文学的な文章に慣れ親しむ機会を多くつくり、丁寧に読み進めて情景や登場人物の心情を読もうみ取るようにする。また、文の構成である起・承・転・結に着目させ、情景や話の流れ、場面の移り変わりを考えさせる。
漢字 (79.9%)	・平均正答率は、市平均正答率より下回っている。特に5年で学習した漢字の書きが低く、6年での漢字も定着が低い。	・漢字練習や熟語の意味調べ短作文作りなどを継続的に行い定着を図る。各教科においても習った漢字は使用するよう意識させるようにする。
言語事項 (76.1%)	・平均正答率は、市平均正答率より下回っている。しかし、ことわざや敬語については市平均正答率より上回っている。漢字辞典の引き方は誤答が多かった。	・国語科に関わらず、意味の分からない語句や熟語が出てきたときは、辞書を引いて調べる習慣を身につけさせる。また、辞書引き大会などゲームを通して辞典の使い方に親しませながら、習熟を図るようにする。
作文 (88.1%)	・平均正答率は、市平均正答率より上回った。手紙の形式にそって始めあいさつと依頼内容、終わりのあいさつを入れて書くことができた。後付けのところが書かれておらず、やや正答率が低かった。	・相手や目的に応じた手紙の書き方や構成を理解させ、適切に内容の手紙を書くことができるよう指導する。また、手紙を書く機会を設けたり、短作文を書いたりしながら、書く力を高めるようにさせる。

宇都宮市立宝木小学校第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と計算	86.4	90.2
	量と測定	87.5	90.0
	図形	85.5	90.1
	数量関係	86.6	89.5
観点別	数学的な考え方	85.2	87.4
	数量や図形についての表現・処理	87.5	90.9
	数量や図形についての知識・理解	85.2	90.7



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算 (86.4%)	異分母分数の加法・減法、分数と整数の乗法・除法、分数の相等、最小公倍数、最大公約数に関する設問の正答率は、市平均を下回った。また、分数の乗法の文章題では、市平均を上回った。	・分数の通分や約分の基礎となるかけ算九九、暗算による割り算といった、学習の積み重ねが不十分な児童には、それぞれの意味を早く理解させるように復習させながら指導したい。また、ドリル学習等で一層習熟を図りたい。
量と測定 (87.5%)	・単位量あたりの大きさで、速さを求める問題、平均を求める問題では、では、市の平均を下回った。	・速さを求める問題では、図を交えて簡単な例を示して、その考え方をよく理解させる。また、公式を覚えさせ、正しく使えるように繰り返し練習問題を解くなどして習熟を図る。
図形 (85.5%)	体積、直方体の体積に関する設問の正答率は市平均を下回った。また、立方体の構成要素、直方体の構成要素、直方体の展開図、立方体の展開図に関する設問の正答率が市平均を下回った。	・円柱の形や特徴を理解できていない児童には、角柱と円柱の相違点、その他の立体の特徴を実物に触れながら確認する作業を通して理解を図る。また、練習問題を解くことによりさらに深く理解させ、習熟を図る。
数量関係 (86.6%)	・文字を使った式では、立式することはできていたが、式を解いて文字の値を求める問題ができず、市平均を下回った。平均とその利用に関する設問の正答率が市平均を下回った。	・文字を使った式では、立式をした後の計算の進め方が正しくできるように、ドリル学習を進める。平均の考え方をよく理解させ、正しく立式できるようにする。また、簡単な計算でも実際に計算をして答えを確認するような学習訓練を積み重ねる。